

自他同形漢語動詞の自他の変化に関する考察

山田 勇人

Consideration on Changes of Chinese-loan-word verbs
which can operate as both intransitive and transitive
verbs

Hayato Yamada

神戸医療福祉大学紀要 第19巻 第1号
(平成30年12月)

<原著>

自他同形漢語動詞の自他の変化に関する考察

山田 勇人

Consideration on Changes of Chinese-loan-word verbs which can operate as both intransitive and transitive verbs

Hayato Yamada

The focus of this paper is the transition in the verbs of the Chinese loan word group which can be used both as transitive and intransitive verbs in Japanese. Some verbs in the group appear to have been limited in their usage either as intransitive or transitive in just a span of fifty years. With surveys conducted over Japanese native speakers as test subjects and one with the corpus, this paper will show clear evidence of an ongoing transition in some verbs in the Chinese loan word group in their usage as both intransitive and transitive.

Key words : Chinese-loan-word verbs, intransitive verbs, transitive verbs, verbs which can operate as both intransitive and transitive verbs, corpus
漢語動詞、自動詞、他動詞、自他同形動詞、コーパス

要 旨

本論は、日本語における自他同形漢語動詞の時代による自動詞と他動詞の変化について考察を行ったものである。自他同形漢語動詞の中には、わずか50年の間に自動詞または他動詞いずれかの用法に限定化をしたものが見られることがわかった。また、コーパスによる調査及び日本語母語話者を被験者とした許容度調査の結果から、現在まさに自他の用法が変化しようとしている漢語動詞の存在が明らかになった。

1. はじめに

漢語サ変動詞には、同一の形態で自動詞と

他動詞の両方の機能を持つ自他同形漢語動詞が少なくない。しかし、日本語学習者にとっては「漢語スル」という同一の形態から自他を判断することはできないため、自他の混同と思われる誤用が散見される。

日本語学習者は、この自他の誤用を避ける方法として、辞書に明記された自他の記述をもとに文を産出することが考えられるが、辞書内の自他の記述と日本語母語話者の実際の使用例に乖離が時に見られる。

「震撼する」を例に考える。『岩波国語辞典第7版』¹⁾、『広辞苑第7版』²⁾、『明鏡国語辞典第2版』³⁾に記述された説明を見ると、「震撼する」は『明鏡』を除いて全て自他同形漢語動詞としている。しかしながら、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』⁴⁾(以下、少納言)

で検索したところ、「震撼する」を他動詞として用いた用例は、用例1の1件のみであった。

用例1. 例えばかの有名な下山・松川・白鳥事件等、戦後の社会を震撼し、大量の共産党員を逮捕、投獄させた一連の大事件だって、当時の日本を牛耳った占領軍・GHQと国家権力と、その走狗となった警察自身が手を組んで、(以下省略) 大久保 紀次⁵⁾

つまり、「震撼する」は、用例の頻度からすれば自他同形漢語動詞ではなく、現在においては限りなく自動詞だと言ええる。そして、「震撼する」を他動詞として用いる場合には、「させる」を接続し、「震撼させる」の形を用いるのが一般的であると言える。少納言による検索でも「震撼させる」の他動詞文が59件見られる。

では、なぜこのように、辞書の自他の記述と実際の使用例に乖離が見られるのだろうか。筆者は、この原因の一つに、日本語としての定着が和語より低い漢語特有の揺れにあると考える。特に、同形で自他両方の用法を持つ自他同形漢語動詞においては、現代日本語という時代区分に属するわずか50~70年の間においても、その揺れが顕著であり、自動詞または他動詞いずれかに限定化を遂げたものの、自他の揺れがまさに進行中であるものなどが存在すると筆者は考える。

そこで、これらの点を明らかにするため本稿では自他同形漢語動詞を中心に自他の揺れの現状をコーパスおよび日本語母語話者の許容度テストから調査し考察を行った。

2. 自他同形漢語動詞について

初めに、自他同形動詞について述べたい。自他同形動詞とは、同一の形態で自動詞と他動詞の両方の機能を有する動詞のことである。自他同形動詞は和語や外来語にも見られるが、特に漢語にはそれが多い。宮島⁶⁾は、自他同形漢語動詞⁷⁾の例として、異化する、一新する、一転する、一変する、移転する、移動する、運転する、液化する、汚染する、汚損する、開業する、解放する、開始する、解消する、解体する、開通する、回転する、回復する、確定する、確立する、完成するなど150語近い漢語を挙げている。

2.1 宮島が挙げた自他同形漢語動詞から外れる漢語動詞

宮島が挙げた約150の漢語動詞が、現在においても自他同形と認識されるかは疑わしい。次に、この点について述べたい。

以下の動詞は、宮島は自他同形漢語動詞としているが少納言を用いて、現在の使用状況と照合すると、自他同形とはいえないものがいくつか見られる。筆者は、少納言の検索条件を2000年以降に設定し、自他同形であると疑わしい11の漢語動詞について調査を行った。

表1 自他同形漢語動詞であると疑わしい漢語動詞

一転する	検索できた62件の用法のほとんどが自動詞用法であり、他動詞用法は見当たらなかった。他動詞用法は「させる」を用いた形が使用されているか、または「一転」の形で終えている。
汚染する	検索できた18件は、全て他動詞用法である。自動詞用法は見当たらなかった。自動詞用法は「される」を接続し、「汚染される」が用いられている。
開通する	110件の検索のうち、ほとんどが自動詞としての使用である。他動詞としての使用は3件のみである。他動詞用法で、「を開通すべく」の形で現れた文もある。
開店する	74件が検索されたが、自動詞用法が大部分を占める。他動詞用法も見られ、10件あった。
合体する	229件が検索され、他動詞用法が12件であった。
休刊する	検索された用例そのものが少なく5件のみであったが、他動詞用法は見られなかった。
喪失する	84件のうち、自動詞用法は9件見られた。
廃刊する	用例が自動詞用法の1件しか見つからなかった。
輩出する	54件が検索され、自動詞用法は4件のみであった。
倍増する	40件が検索され、他動詞用法は1件のみであった。
普及する	299件のうち、ほとんどが自動詞用法であり、他動詞用法は5件であった。

この結果をまとめると次のようになる。

自動詞へと変化：一転する、開通する、普及する、廃刊する、倍増する

他動詞へと変化：汚染する、輩出する

これら漢語動詞の使用実態を見ると、自他

同形から限りなく自動詞あるいは他動詞へと変化している漢語動詞が少なからずあると言える。

宮島の研究が発表されたのが1972年であることを考えれば約50年という年月においても自他の用法に変化が見られると言える。筆者は、この自他同形から自動詞または他動詞へと用法が狭まった現象を「自他用法の限定化」と呼ぶことにする。

2.2 岩波国語辞典第2版と第7版との比較から見る自他の変化

自他の用法の変化は辞書にも見られる。ここでは『岩波国語辞典』（以下、岩波）を取り上げて考えたい。岩波は、これまで第7版の版を重ねている。筆者は、入手することのできた1971年出版の第2版⁸⁾と2011年出版の第7版をもとに、宮島の挙げた自他同形漢語動詞の比較考察を行なった。この調査からわかったことは、同じ岩波の記述であっても、40年の歳月の経過によって自他の用法・記述に変化が見られることである。その変化を下記に示す。

自他から自動詞：開通する、停車する

自他から他動詞：樹立する

自動詞から自他：一転する、汚染する、完備する、休刊する、実現する、中和する

他動詞から自他：開店する、緩和する、増進する

この結果は、あくまでも岩波の記述に変化が見られたことを示しているに過ぎないが、少なくとも1970年から2010年という約40年という期間に自動詞と他動詞の用法に時代的变化が見られることを示しているのではないだろうか。

さらに興味深い点として、自他の変化が自他同形から自動詞または他動詞へと変化した

限定化だけではなく、自動詞または他動詞のみの用法であったものが自他同形へと用法が広がったと考えられるものもある。筆者は、この現象を限定化に対し、「拡張化」と呼ぶこととする。

拡張化の例として、「増進する」⁹⁾を挙げる。「増進する」は岩波第2版では他動詞とされているが、現在においては自動詞の用法も見られる。用例2、用例3はインターネットからの検索によるものである。

用例2. フライアッシュを混和材として利用することにより、コンクリートの長期強度が増進し、組織が緻密化して密実なコンクリートとなります。¹⁰⁾

用例3. 本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進したりするものではありません。¹¹⁾

3. 「限定化」が進みつつある自他同形漢語動詞「完成する」

限定化を遂げたと考えられる漢語動詞の存在について述べたが、本項では、今まさに用法の限定化が進みつつある漢語動詞の存在を考えたい。その例として、「完成する」を取り上げる。

「完成する」を考察の対象に挙げたのは、宮島（1972）が自他同形漢語動詞を説明する際の最たる例として挙げていること、日本語教育において「完成する」が初級または中級レベルで提出される頻度の高い語だという点からである。

また筆者は、日本語教育の現場において「完成する」の自他について教師間で判断が分かれるという現場に遭遇している。

用例4. 問題1 次の中の言葉を使って、文を完成しなさい。

用例4は、筆者が以前勤めていた日本語教育機関の試験問題に実際にあった問題指示文の文言である。「次の言葉を使って文を完成しなさい」と記されていた問題指示文の文言に、別の教師が「完成させなさい」と訂正を入れたのである。

確かに、辞書を見れば「完成する」は自他同形としているものが多いのだが、「完成する」を自動詞と認識し、他動詞として使用することに違和感を持った教師が指示文の訂正を申し入れたのである。このように「完成する」とすべきなのか、「完成させる」とすべきなのか日本語教師間でも意見が分かれたのである。そして、一つの傾向として教師の世代間によってどちらを良しとするか判断が分かれたのである。

筆者は、このような事例から「完成する」は、まさに自他の限定化が進んでいる漢語動詞の代表例ではないかと考え、「完成する」の使用の実態を調査した。

3.1 主要国語辞典における「完成する」の意味記述および自他の判別

「完成する」の自他について主要な日本語辞典では、どのように記述されているのだろうか。表2は、主要国語辞典の「完成する」の項をまとめたものである。

表2 主要国語辞典に見る「完成する」の意味記述および自他の判断

広辞苑 第7版 2018	完全できあがること。完全に仕上げること。 例：絵が完成する。理論を完成する。	自他*
学研国語大辞典 第2版 1990	すっかりできあがること。全部しあげること。 例：十年近くも費やした壁画が完成した。	自他

岩波国語辞典 第7版 2011	事物が完全に仕上がること。人などが事物を完全に仕上げること。 例：新曲が完成した。県が橋を完成した。	自他
明鏡国語辞典 第2版 2010	完全にできあがること。また、完全に仕上げること。(語法) ～を完成する／完成させるでは後者が一般的 例：新庁舎が完成する。徹夜で作品を完成させる。	自他

* 広辞苑では自他の明記はないが、意味の記述から筆者が自他を判断した

これら辞書の記述では、「完成する」は自動詞と他動詞の用法を持つ自他同形漢語動詞とされている。ただし、『明鏡』では他動詞の用法には「完成する」「完成させる」の形があるが、「完成させる」のほうが一般的だという記述をしている。例文も他動詞用法は、「完成させる」の形のみを記している。

3.2 少納言から見る「完成する」の自他の時代的变化

筆者は、「完成する」の他動詞としての使用が年代的にどのように変化しているのか調査を行なった。調査方法は、現代書き言葉均衡コーパス「少納言」を用い、1970年代、80年代、90年代、2000年代と時代を区切って「完成する」の他動詞用法を検索した。「完成する」が自他同形とされているならば、他動詞文は「を完成する」が用いられ、限定化が起きているのであれば「を完成させる」が用いられているということになる。

以下は、年代ごとの結果である。

3.2.1 「1970年代」に見る「完成する」の他動詞用法

「完成させる」の用例はわずか2件である。その用例は、「いろいろな調査研究の結果を積み重ねて、この法案を将来完成させた

い」¹²⁾、「初めからどこかに売電するという計画でもあって、もっと早く完成させるつもりだったのがおくれて」¹³⁾というものである。

一方、「完成する」の用例は6件である。以下は、その用例である。「沖縄国際海洋博覧会政府展示館等を完成し、」¹⁴⁾、「これからの日本を考えてみますと、日本がせつかく完成した技術というものを」¹⁵⁾、「月に24回線PCM基礎群1群と12回線FDM基礎群2群とを相互交換する試作装置を完成している。」¹⁶⁾、「四十九年度に総額一億四千万円をもって完成したしいたけ集出荷貯蔵施設であります。」¹⁷⁾

3.2.2 「1980年代」に見る「完成する」の他動詞用法

「完成させる」の用例は32件である。その用例として、「加熱装置については、昭和61年度に、完成させ、以後、臨海条件の達成を目指した臨海プラズマ試験」¹⁸⁾、「開港時まで完成させるのは無理であるけれどもできるだけ早く完成させるべき路線という部類に入っておる路線でございまして」¹⁹⁾などが検索された。

一方、「完成する」は39件であった。その用例として、「閣議決定の文書を読みまして、昭和四十七年に一元化を完成すると書いてありますね。」²⁰⁾、「昭和25年に真空管を用いた電子式自動制御装置を完成した。」²¹⁾などが見られた。

3.2.3 「1990年代」に見る「完成する」の他動詞用法

「完成させる」の用例は112件であった。「登記ジムのコンピューター化を一層推進する必要があります。しかも、これを早期に完成させまして、」²²⁾、「ガーデンパーティーの調理のポイント 調理は、盛り付けまでを家

の台所で完成させておきます。」²³⁾などが検索された。

一方「完成する」の用法は58件であった。「つまり、芸術家は作品を完成するにしても、自分の特殊性を外化してしまい、」²⁴⁾、「私どもが申し上げられることは、成田空港の平行滑走路を一日も早く完成すべく最良の努力をすること」²⁵⁾などの用例が見られた。

3.2.4 「2000年代」に見る「完成する」の他動詞用法

「完成させる」の用例は482件であった。「多彩な味覚を取り入れて“わが家のおせち”を完成させませんか。」²⁶⁾、「みんなで力を合わせ、大仕事を完成させようと決める。」²⁷⁾などがその例である。

一方「完成する」の用法は55件であった。「BがCから購入した材料を用いて工事を完成した場合、BはAに対して、請負代金債権を取得することになる」²⁸⁾、「平成12年度は研究のためのハードウェアをほぼ完成した。」²⁹⁾などがその用例である。

3.3 年代別に見る「完成する」の他動詞用法の形

少納言で検索した「完成する」「完成させる」の用例数をまとめたものが表3である。

表3 年代別に見る「完成する」の他動詞用法の形

年代	完成する	完成させる
1970	6件 (75%)	2件 (25%)
1980	39件 (54.9%)	32件 (45.1%)
1990	58件 (34.1%)	112件 (65.9%)
2000	55件 (10.2%)	482件 (89.8%)

この結果は、あくまでも傾向を探る一つの目安に過ぎないかもしれない。しかし、その数字の変化には興味深い点が見られる。それ

は、「完成する」が他動詞として用いられた場合、1990年を境として「完成させる」が逆転する点である。1970年代は、検索された用例が少ないものの、割合でとて見るならば、「完成する」はかなりの高い割合を示している。一方で、2000年以降は、そのほとんどが「完成させる」で表されていることが分かる。

山田一美・勇人³⁰⁾は、自他同形漢語動詞にもかかわらず、あえて「漢語サセル」が用いられる場合として、①自動詞よりの自他同形の漢語動詞が他動詞として用いられる場合 ②無生物主語の他動詞文の場合 ③修飾関係をはっきり示す場合④動作に意志性を持たせる場合⑤ヲ格をはっきり明示されていない場合を挙げている。しかし、「完成させる」の出現は、山田らが挙げるいずれのケースにも当てはまりにくく、「完成する」の自他の用法自体が時代的な変化をしていると考えられる。

4. 「完成する」の他動詞用法に関する許容度調査

次に、日本語母語話者は「完成する」をどのように捉えているのだろうか。そこで、筆者は日本語母語話者の使用の実態を探るべく、「完成する」の他動詞用法に関する許容度調査を行った。

4.1 許容度調査の概要

被験者は20～70代の日本語母語話者³¹⁾である。調査では、「完成する」を用いた他動詞文13文をそれぞれ「完成する」「完成させる」の形で提示し、その文の許容度を測定した。以下は、許容度調査³²⁾使用したアンケート用紙である。

(アンケート用紙)

次の文を読んでください。自然だと思ふ文には2を、やや不自然だと思ふ文には1を、不自然な文には0をつけてください。

- ①2時間かかって、ようやくレポートを完成した。(0・1・2)
2時間かかって、ようやくレポートを完成させた。(0・1・2)
- ②習った言葉を使って、文を完成するという宿題が出た。(0・1・2)
習った言葉を使って、文を完成させるという宿題が出た。(0・1・2)
- ③作品を完成した人は、こちらに提出してください。(0・1・2)
作品を完成させた人は、こちらに提出してください。(0・1・2)
- ④どうかこうにか作品を完成し、先生に提出した。(0・1・2)
どうかこうにか作品を完成し、先生に提出させた。(0・1・2)
- ⑤政府は、さまざまな調査研究の結果を積み重ねて、この法案を将来完成したいと思っているようだ。(0・1・2)
政府は、さまざまな調査研究の結果を積み重ねて、この法案を将来完成させたいと思っているようだ。(0・1・2)
- ⑥報告書をもっと早く完成するつもりだったのが、2週間も遅れてしまった。(0・1・2)
報告書をもっと早く完成させるつもりだったのが、2週間も遅れてしまった。(0・1・2)
- ⑦市では専門家の協力を得て、市内全域のバリアフリーマップを完成した。(0・1・2)
市では専門家の協力を得て、市内全域のバリアフリーマップを完成させた。(0・1・2)
- ⑧多彩な味覚を取り入れて“わが家のおせち”を完成しませんか。(0・1・2)
多彩な味覚を取り入れて“わが家のおせち”を完成させませんか。(0・1・2)

- ⑨みんなで力を合わせ、大仕事を完成しようとした。(0・1・2)
みんなで力を合わせ、大仕事を完成させようとした。(0・1・2)
- ⑩BがCから購入した材料を用いて工事を完成した場合、BはAに対して、請負代金債権を取得することになる。(0・1・2)
BがCから購入した材料を用いて工事を完成させた場合、BはAに対して、請負代金債権を取得することになる。(0・1・2)
- ⑪今年度は研究のためのハードウェアをほぼ完成した。(0・1・2)
今年度は研究のためのハードウェアをほぼ完成させた。(0・1・2)
- ⑫ガーデンパーティー料理のコツは、盛り付けまでを家の台所で完成しておくことです。(0・1・2)
ガーデンパーティー料理のコツは、盛り付けまでを家の台所で完成させておくことです。(0・1・2)
- ⑬明治四年に高島嘉右衛門らが水道会社を設立し、多摩川を水源とする上下水道を明治六年に完成し、給水を始めている。(0・1・2)
明治四年に高島嘉右衛門らが水道会社を設立し、多摩川を水源とする上下水道を明治六年に完成させ、給水を始めている。(0・1・2)

4.2 調査結果および考察

表4は、20～30代(1群)、40代～50代(2群)、60～70代(3群)と年齢によって3つのグループに分け、その平均点を記したものである。

表4 「完成する」「完成させる」に関する
許容度調査を年齢別にまとめたもの

	1		2		3		4		5	
	する	させる	する	させる	する	させる	する	させる	する	させる
1群	0	2	0	2	0	2	0.14	2	0.43	2
2群	0.43	2	0.57	2	0.29	2	0.29	2	0.86	2
3群	1.06	1.94	1.13	2	1.38	1.5	1.38	2	1.13	2
	6		7		8		9		10	
	する	させる	する	させる	する	させる	する	させる	する	させる
1群	0.17	2	0.43	2	0.29	2	0.29	2	0.43	2
2群	0.43	2	0.43	2	0.57	2	1	2	0.86	2
3群	1.63	1.75	1.25	1.88	1.13	1.81	1	1.81	1.63	1.81
	11		12		13					
	する	させる	する	させる	する	させる				
1群	0.14	2	0.29	2	0.29	2				
2群	0.43	2	1	2	0.71	2				
3群	1	1.88	1.25	1.88	1.31	1.88				

これを見ると、年齢が下がれば下がるほど「完成する」を他動詞として使用することに違和感を持っていることがわかる。一方、最も年齢が高い3群においては「完成する」を他動詞として使用することに違和感はなく、むしろ「完成させる」という形に違和感を持つ被験者も見られた。これは、この年齢層においては「完成する」が他動詞としての機能を持っているにもかかわらず、あえて「させる」を付加する必要はないと捉えているのではないかと推察される。

また、今回の調査では、「完成する」にアスペクトやモダリティーを付加したり、連体修飾節にしたりと形を変えて調査を行ったのだが、その違いによる許容度の違いはあまり見られず、1群に関しては「完成する」の他動詞用法はいずれの文にしても低く、3群は比較的高いという結果であった。

このように「完成する」の自他の判断は、日本語話者の年齢によって差異が見られる。1群のように「完成する」が自動詞であると認識する日本語話者が大勢を占めたとき、「完成する」は完全なる自動詞へと変化していくことが予想される。

5. まとめ及び今後の課題

本論文では、漢語動詞の自他が時代の変化によって、どのような変化を遂げているのか考察を行った。漢語動詞の自他は現代においても揺れが見られることが分かった。また「完成する」のように日本語話者の年齢によって大きく使用が異なり、まさに自他の変化を遂げようとしている実態も明らかになった。

今回の調査は、変化の実態をコーパスや日本語話者による許容度調査から明らかにすることが中心で、なぜこれらの漢語に変化が見られるのかという考察には至らなかった。今後は、「完成する」と同じような変化を遂げつつある漢語を抽出し、その特徴について考察ができればと思う。

注、引用文献

- 1) 西尾実、岩淵悦太郎、水谷静夫編：岩波国語辞典第7版、735、岩波書店、東京、2011
- 2) 新村出編：広辞苑第7版、1498、岩波書店、東京、2018
- 3) 北原保雄編：明鏡国語辞典第2版、868、大修館書店、東京、2010
- 4) 国立国語研究所コーパス開発センター編：少納言 (KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」オンライン版)、<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/> (最終閲覧日:2018年9月10日) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトの共同開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese、通称「少納言」)を使用。同コーパスは、2012年3月現在、1971年代から2005年の書籍、雑誌、

- 新聞、白書、国会会議録など11種のデータが集められている。
- 5) 大久保紀次:可能性に挑んだ聴覚障害者、コーパスによる検索のため頁不明、文理閣、京都、2005
- 6) 宮島達夫:動詞の意味・用法の記述的研究、705-706、秀英出版、東京、1972
- 7) 本稿では、自他同形漢語動詞を次のように定義する。少納言を用いて、自動詞と他動詞双方の用例が複数件見られるものを自他同形漢語動詞とした。また、他動詞とは統語上の一形態と見なし、対象のヲ格を有するまたは有しているであろう動詞とし、それ以外を自動詞としている。先行研究においては、主要国語辞典の記述も自他同形漢語動詞の判断材料としているものもあるが、各国語辞典がどのように自動詞と他動詞を捉えているか明確な記述は見られないため、国語辞典の自他の記述に関して、筆者は一つの参考資料に留めている。
- 8) 西尾実、岩淵悦太郎、水谷静夫編:岩波国語辞典第2版、144、116、203、230、465、682、岩波書店、東京、1971
- 9) 宮島達夫:前掲書、705-706では「増進する」を自他同形漢語動詞として挙げている。
- 10) 北海道電力株式会社編:フライアッシュコンクリート、ほくでん、1、http://www.hepco.co.jp/corporate/environment/recycling_society/pdf/flyash_concrete.pdf (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 11) 公益財団法人わかやま産業振興財団編:参考資料2 栄養機能表示可能な成分、表示に必要な上下限值、栄養機能表示、注意喚起表示(別表第十一の内容)の一覧、1、<http://www.yarukiouendan.jp/research/tiikiinnovation/pdf/kaju-yasai/05.pdf> (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 12) 国立国会図書館:国会会議録(1978年第84回国会)、http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_result (*以下、注12)~29)は同URL) (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 13) 国立国会図書館:国会会議録(1977年第80回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 14) 建設省:建設白書、コーパスによる検索のため頁不明、大蔵省印刷局、東京、1976
- 15) 国立国会図書館:国会会議録(1977年第80回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 16) 郵政省:通信白書、コーパスによる検索のため頁不明、大蔵省印刷局、東京、1977 (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 17) 国立国会図書館:国会会議録(1976年第77回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 18) 原子力委員会編:原子力白書、コーパスによる検索のため頁不明、大蔵省印刷局、東京、1983 (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 19) 国立国会図書館:国会会議録(1986年第104回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 20) 国立国会図書館:国会会議録(1985年第103回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 21) 科学技術庁編:科学技術白書、コーパスによる検索のため頁不明、大蔵省印刷局、東京、1984 (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 22) 国立国会図書館:国会会議録(1997年第141回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 23) 日本放送出版協会編:行楽べんとうとアウトドアクッキング、コーパスによる検索のため頁不明、日本放送出版協会、東京、1994 (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 24) ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲル(著) 檜山欽四郎(訳):精神現象学、コーパスによる検索のため頁不明、平凡社、東京、1997 (最終閲覧日:2018年9月10日)
- 25) 国立国会図書館:国会会議録(1998年第142回国会)(最終閲覧日:2018年9月10日)
- 26) 実著者不明:和楽、コーパスによる検索

のため頁不明、小学館、東京、2002（最終閲覧日：2018年9月10日）

- 27) 実著者不明：Yahoo! ブログ、コーパスによる検索のため頁不明、Yahoo! japan、東京、2008（最終閲覧日：2018年9月10日）
- 28) 東京リーガルマインド LEC 総合研究所 司法試験部編：C-book 民法、コーパスによる検索のため頁不明、東京リーガルマインド、東京、2001（最終閲覧日：2018年9月10日）
- 29) 内閣府編：障害者白書、コーパスによる検索のため頁不明、大蔵省印刷局、東京、2001
- 30) 山田一美・勇人：漢語サセル動詞に関する一考察、大阪女学院短期大学紀要、39、19-29、2009
- 31) 内訳は、20代～30代14人、40～50代11人、60～70代16人である。
- 32) 許容度調査とは、提示された文の自然さを図るものである。正しいか正しくないかの2択ではなく、その文の自然さを連続性のある数値で表すものである。1と2の間だと回答した場合は0.5とした。